

A型事業所

ウインワークス株式会社 のサービス

ウインナック株式会社

ウインワークス株式会社

代表取締役社長 西芳男

A型事業所誕生のきっかけ

- 親会社 ウィンナック株式会社（機械部品製造会社）
 - 1) 和歌山県、和歌山市、民間企業（アクロナイネン株式会社）
3団体により、重度障がい者を雇用するために設立した。（1994年）
 - 2) 県、市は経営等に一切関与しない。
 - 3) 創業以来十数年ずっと赤字だった。（アクロナイネンが補てん）

2009年リーマンショックの影響で、会社は赤字、社員は精神的、体力的に限界状態。結果多くの障がい者が退職の危機

- ・ A型事業所ウィンワークス株式会社（2009年設立）
- ・ 2010年1月操業開始（利用者16人）

《作業内容 ウィンナック（株）の下請け＝バリ取り作業が中心》

A型事業に参入して良かったこと

1. 障がい者全員の雇用を続けることができた

希望者を新会社へ利用者として採用（16人）、希望しない者（18人）はそのままウイナック（株）で継続雇用した

2. ウイナックの収支が改善した

3. 個人を正確に識別できるようになった

障がいや個性が理解しやすくなった

能力の判定が正確に出来るようになった

賃金の不公平が改善された

良質のサービスを提供するために

企業理論に徹する（商売と福祉を一緒に議論しない）

障がい者雇用を仕事の言い訳にしない ＝経営者

障がい者が仕事に没頭できる環境をどう作るか

- ・心配事を作業場に持ち込ませない取り組みをする ＝指導員等

会社の内外を問わず、心配事は積極的に相談に応じ対応する

（会社内で） 仕事・人間関係、食事・身だしなみ

（社外でも） 病気、家族・友達関係、金銭トラブル

- ・一人ひとりの能力を正しく把握し、加重な期待をしない

必要に応じて

家庭と連携を密にする

産業医、顧問弁護士に相談する

A型での課題

- 最低賃金を払える仕事を常に用意できるか
- 優秀な指導員を育てられるか
- 能力の違いを賃金等にどの程度反映するか
- 利用者の生産性（作業能力）を高める方策
- 他の一般企業、事業所（B型？）との連携